

北白川廃寺発掘調査現地説明会資料 2005年12月3日

所在地：京都市左京区北白川大堂町

調査期間：2005年11月14日～2005年12月8日（予定）

調査面積：約90m²

調査機関：（財）京都市埋蔵文化財研究所

はじめに

北白川廃寺は京都盆地の北東、瓜生山の南西麓にあり、白川が形成した扇状地に位置しています。1934年（昭和9）に京都市が実施した土地区画整理工事中に偶然発見されました。発見された遺構は建物基壇の一部で、その後の調査で基壇周囲を瓦で化粧した瓦積基壇であることがわかり「北白川廃寺」と名付けられました。さらに1974・75年（昭和49・50）には、この基壇から西へ約80mの地点で、一辺が14m方形の基壇がみついています。現在、この二つの基壇が同じ寺院のものである確証は得られていませんが、東側の基壇（東方基壇）を金堂、西側の方形基壇が塔と推測されています。北白川廃寺は飛鳥時代後半（7世紀後半）に建立、平安時代の終わり頃には廃絶したものと考えられています。

1980年（昭和55）には東方基壇のすぐ西側で、南北方向に延びる建物地業（基礎）やその上に据付けられた礎石を発見しています。今回の調査地はその調査区のすぐ南側にあたります。

今回発見された遺構

調査区の西端で1980年に発見されたものに続く建物地業などが見つかりました。礎石は見つかりませんでした。礎石の据付け穴を2箇所で見つけることができました。

西側地業 約50cmの厚さで土を積み上げ（版築）、この上面に南北2箇所の礎石据付け穴が見つかりました。据付け穴の規模は、一辺が約1.3mの隅丸方形で中央に直径約0.9mの抜き取り穴があります。心々距離は約3.2mです。

南側地業 調査区の南側に沿って黒褐色の土を盛り上げて構築している地業（版築）が見つかりました。高さは、約1mあります。幅については、不明です。

瓦溜り 調査区の中央部で瓦溜りが見つかりました。東西約11m、南北4m以上、深さ1.0mあり、大量の瓦が詰まっています。

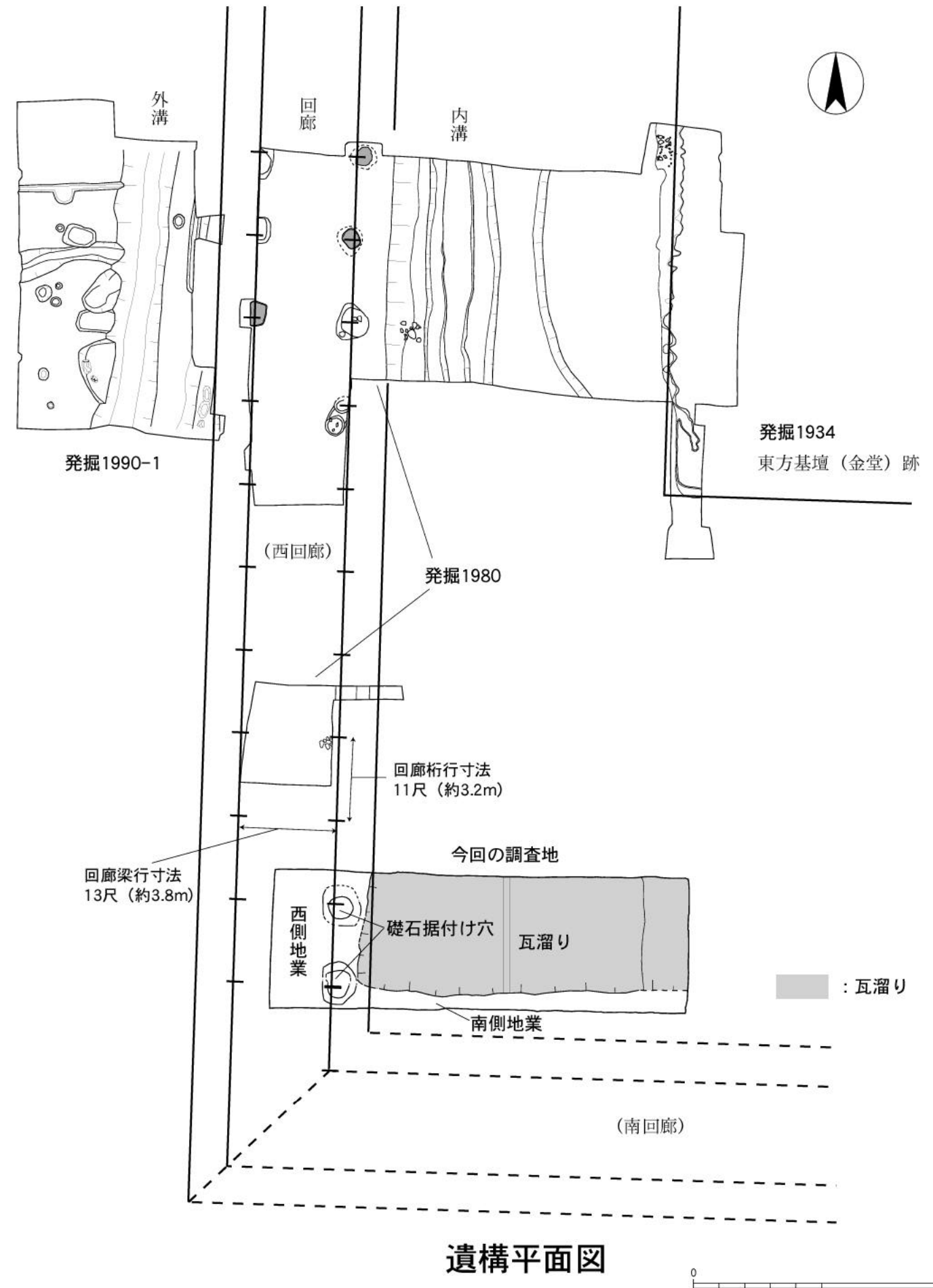
出土遺物

整理箱にして90箱をこえる瓦が出土しています。白鳳時代（7世紀後半）の軒丸瓦や軒平瓦などが出土しています。

まとめ

今回発見した西側地業の礎石列は、1980年の調査区から南北に30m（10間）以上続くことがわかりました。また、南側の高まりが地業であれば、回廊がこの地点で東へ折れ曲がっているとみられます。この回廊は、1934年に見つかった東方基壇を取り巻くとも考えられます。

北白川廃寺の伽藍配置は不明な点が多く、今後も周辺での調査には注意が必要です。



遺構平面図





東方基壇発掘状況 1934年 西北より 基壇の様子



回廊跡と東方基壇西端の状況 1980年 南東より



東方基壇発掘状況 1934年 瓦積基壇の様子 (落ちていたのは礎石と思われる)

「北白川廃寺跡」『京都府史蹟名勝天然記念物調査報告』第19冊 京都府 昭和14年(1939)より転載



回廊の基壇・礎石と内溝の状況 1980年 東より